

令和 6(2024)年度 リカレント選抜 学生募集要項

今後入学者選抜の日程や内容等に変更が生じる場合は、本学ホームページで周知いたしますので、出願後であっても随時確認するようにしてください。

本学ホームページ <https://www.nittai.ac.jp/index.html>

體 日本体育大学
Nippon Sport Science University

建学の精神（基本理念）の解釈・ミッション（社会的使命）・ビジョン（目標）

● 建学の精神（基本理念：創立の想い、設置目的）

『 たい いく ふ きょう の もと い 體 育 富 強 之 基 』

真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である。

本学は、その母体を明治24（1891）年に設立された体育会（翌年、日本体育会に改称）とし、この時、創設者日高藤吉郎が掲げた、「體育富強之基」（「体育は富国強兵の基本である」）を建学の精神としている。

昭和24（1949）年、日本体育大学体育学部設置に際し、国際平和の実現に寄与する国づくりを念頭に、その精神は、「体育は肉体をより強靱に富ます基礎である」と解されるようになった。

さらにその後、本学が創設以来、一貫して、スポーツを通じ、全ての人々の願いである“心身の健康”を育み、あわせて世界レベルの優秀な競技者・指導者の育成を追求し続けてきたことに鑑み、今日、この建学の精神（基本理念）は、上掲の通り、解釈が加えられている。

● ミッション（社会的使命：果たすべき役割、存在意義）

本学は、「建学の精神」の具現化、即ち、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」のため、次の使命を果たす。

1. 体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における先駆的・実践的研究を通じて、人間の「活力ある身体」について、その真理を探究する。
2. 国際社会・地域社会において、先導的役割を担う有為な人材を輩出し、人類共通の願いである、幸福で豊かな社会の構築に資する。
3. スポーツ文化の深化・発展に努め、オリンピック・パラリンピックムーブメントの精神の実践・普及を推進し、スポーツのもつ様々な「力」を活用して、国際平和の実現に寄与する。
4. 高度な国際競技力を有し、他者の「生き方」モデルとなる優れたアスリートを育成するとともに、人間の心身の可能性（生命の輝きや身体の躍動など）を追究し、活力に満ちた社会の創生に貢献する。

● ビジョン（目標：目指すべき姿、将来像）

本学は、その社会的使命を果たすとともに、「身体にまつわる文化と科学の総合大学」として、かかる分野のリーディング・ユニバーシティを目指し、「教育」「研究」「社会貢献」について、次の目標を定める。

【教育】

人間の「活力ある身体」を熟知し、その多様性を受け容れ、地球市民として各分野で活躍できるグローバルリーダーを育成する。

そのため、教養及び専門的知識・技能の修得、涵養はもとより、コミュニケーション力（言語・表現力）、課題発見・解決力、創造的思考力などを身につけ、複眼的な視点をもって協働・共生のできる人材を養成する。

【研究】

真摯な基礎研究と課題解決に向けた実践的研究を高い水準で展開し、各専門分野の連携を図りながら、学際的研究に取り組むとともに、その成果を広く社会に発信する。

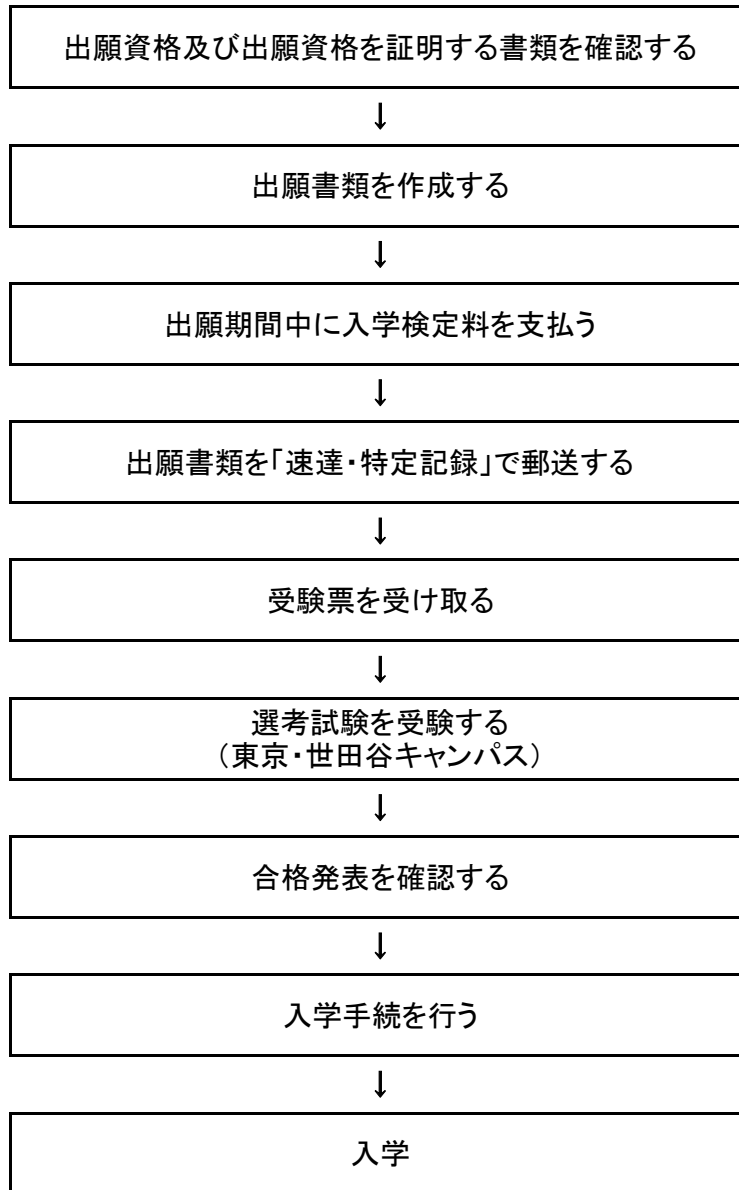
とりわけ、体育・身体活動・スポーツの実践から生じる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学の諸分野から総合的に分析・検討を加え、得られた新たな知見や解決法を実践現場に還元する双方向的な研究活動を推進する。

【社会貢献】

あらゆるステークホルダーとの関係強化を図るとともに、国内外の諸機関との連携・協力関係を構築し、本学の教育・研究活動の成果、人的・知的財産などを還元する。

これにより生涯学習の機会を提供し、地域の教育、福祉の発展に貢献するとともに、大学と社会との「知と技」の好循環を創出することにより、地域社会の力を引き出す大学として、その拠点を形成する。

出願から入学までの流れ



志願者の提出書類について

出願にあたってお知らせいただいた個人情報は、入学試験、合格発表、入学手続及びこれらに付随する事項を行うために利用します。これらの業務の一部を本学より業務の委託を受けた業者に個人情報を提供する場合があります。

また、個人が特定されないように統計処理した情報を、今後の入学選抜及び広報活動のための調査に利用します。予めご了承ください。

体育学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

体育学部では、本学の「教育目標」に沿った人材を育成するため、独自の教育プログラムを展開する。この課程における、卒業認定と学位授与【学士（体育学）】の要件は、以下の通りである。

1. 所定の期間在学し、本学の社会的使命（ミッション）及び目標（ビジョン）に則って設定された授業科目を履修することにより、所定の単位を修得している。
2. 体育スポーツ学に関する諸科目の多面的な履修を通じて、広く教養を培うとともに、体育・身体活動・スポーツの実践を通じて、体力の向上、健康の保持増進、心身の調和のとれた発達、競技力向上、国際平和の実現に貢献できる専門的知識と技能とを体得している。
3. 体育学部における共通教育及び各学科・学修領域に設定する体系的学修とを通じ、現代社会が抱える体育スポーツ学の諸問題について、課題探求力や問題解決力、さらには、それらを実践現場において有効に還元するためのコミュニケーション力、実践力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

体育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる知識及び能力を修得させるために、その基礎となる体育学部共通科目及び各学科・学修領域における実践的科目を編成し、講義・演習・実習等を適切に展開する。

【体育学科】

1. 体育学科では、「スポーツ教育」及び「競技スポーツ」に関する学修領域を設け、当該分野におけるより高度な知識と技術とが体得できるよう、関連科目を配する。
2. 青少年の健全な心と身体とを育む力やスポーツの競技力向上に資する力を修得すべく、関連の実践的技術・理論科目を配する。
3. スポーツ医科学、コンディショニング管理、スポーツ傷害に関する科目についても設けることとし、ひとりひとりの技術・体力レベル等に応じた適切なスポーツ指導が展開できるよう、実践現場での実習等を重視する。

【健康学科】

1. 健康学科では、「ヘルスプロモーション」及び「ソーシャルサポート」に関する学修領域を設け、当該分野におけるより高度な知識と技術とが体得できるよう、関連科目を配する。
2. 心身ともに健やかで豊かな福祉社会の実現に貢献できるよう、健康科学・スポーツ医科学に関する実践的技術・理論科目を配する。
3. 身体活動によって生じる外傷・障害の対応、安全の確保に必要な実践的技術を修得できるよう、実践現場での実習等を重視する。

アドミッション・ポリシー（入学受入の方針）

体育学部は、その「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」に沿って、入学受入を実施する。

【求める人材像】

1. 国語、英語等で学んだことを基盤とした言語能力及びコミュニケーション能力を有している。
2. 地理歴史、公民等を通じた地球規模で現代社会を読み解く力を有している。
3. 数学、理科等で学んだ思考力に基づき、体育・身体活動・スポーツを客観的に分析する力を有している。
4. 保健体育、芸術等で研いだ感性と創造力から、人間の心身の可能性（スポーツ・芸術・文化）について探究する力を有している。
5. 種々の課外活動を通じて身につけたチームワークや実践力を有している。

【入学受入の種類】

入学受入にあたっては、上掲の高等学校等において修得すべき、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」、「一般選抜」、「特別選抜」（帰国生・国際バカロレア（IB）資格・英語外部資格・外国人留学生・リカレント・飛び入学）など多様な選抜区分を設ける。

スポーツ文化学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

スポーツ文化学部では、本学の「教育目標」と本学が培ってきた伝統に基づき、我が国の体育・スポーツ界並びに来るべき社会を国際的にリードできる人材の育成を図るための独自の教育・研究プログラムを通じて、以下のような資質・能力を獲得した学生に「学士(体育学)」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能

- (1) 幅広い教養と、伝統に由来する体系化された「我が国固有の伝統スポーツ文化」である武道並びに伝統芸能に関連した科学的な知識と技能を身に付けている。
- (2) 武道並びに伝統芸能を通じて国際的に貢献するために必要な科学的な知識と技能を身に付けている。
- (3) 日本の精神文化に立脚した体育・スポーツを通じた国際的な社会的課題の解決に必要な知識と技能を身に付けている。

2. 汎用的能力

- (1) スポーツを通じた国際理解、国際平和の実現に向けて、適切に課題を解決することができる。(課題解決力)
- (2) スポーツを通じた国際理解、国際平和の実現に向けて、適切なコミュニケーションを営むことができる。(コミュニケーション能力)
- (3) 課題解決に必要な情報を収集、評価、活用できる。(情報収集力)

3. 態度

- (1) 主体性をもって多様な人々と協働し、スポーツを通じた国際理解、国際平和の実現に向けて取り組もうとしている。
- (2) 多様な他者の意見や思いを共感的に理解しようとしている。
- (3) 生涯にわたり新しい知識やスキルを積極的に身に付けようとしている。
- (4) スポーツの価値や礼節を尊重し、その実現に向けて責任をもって行動しようとしている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ文化学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成

- (1) 本学が果たしてきた歴史的・社会的使命を理解すると同時に我が国の体育・スポーツの歴史を知り、本学で学ぶ意味の醸成を目的として「日体大アイデンティティ科目」を設け、「日体大の歴史」及び「オリンピック・パラリンピック概論」を置く。
- (2) 体育・スポーツにおける実践的指導力のみならず、広く社会一般で先導的役割を担うためのチームワークやリーダーシップ、コミュニケーション能力並びに規範的意識を養成するため、「日体大アイデンティティ科目」に「海浜実習」、「キャンプ実習」、「スキー実習」、「スケート実習」の4つの学外(野外)実習科目を設ける。
- (3) 多様性を受け容れ、共生・共感的態度をもって、地球市民として各分野で活躍できる力を養うために「グローバルコミュニケーション科目」を設ける。
- (4) よき市民及び国際人として身に付けるべき基本的な素養としての社会人基礎力と調和の取れた人間力を形成するため、学部共通科目に「教養科目」を設け、基礎教養に関わる科目と言語コミュニケーション科目を置く。
- (5) 体育・スポーツを通じて国際的な社会的課題を主体的に解決できる能力を育成するために、「総合科目」の中に研究科目を設ける。この科目群では、初年次に「スポーツ文化研究A」、2年次に「スポーツ文化研究B」、3年次に「スポーツ文化研究C・D」、4年次に「スポーツ文化研究E・F」を必修とし、課題解決力、コミュニケーション能力、情報収集力の段階的・体系的な能力の向上を図る。
- (6) スポーツ・健康科学並びにスポーツ指導の基礎的知識、技能、態度を修得するために、「基幹科目」、「展開科目」、「専門科目(体育実技)」を設ける。
- (7) スポーツを通じた国際貢献の基幹となる知識、技能並びに態度を習得するために「学科基礎科目」を設ける。
 - ① 武道教育学科
わが国固有の精神文化に立脚した体育・スポーツを中心にその内容を構成する。
 - ② スポーツ国際学科
海外の体育・スポーツを中心にその内容を構成する。
- (8) 体系的かつ専門的な学修を通じて体得した知識、技能等を総合的に活用するために「学科専門科目」を設ける。
 - ① 武道教育学科
武道教育、伝統芸能、体育指導などに関わる教養とスキルを向上させる科目を置く。
 - ② スポーツ国際学科
スポーツ国際交流、スポーツ支援、スポーツ国際開発援助などで今日的課題を実践的に解決する力を獲得するために、国際的な教養とスキルを向上させる科目を置く。

2. 教育方法

- (1) 講義、反転学習、ピア学習、課題探究型学習等を効果的に組み合わせることで、他者と双方向的に関わりながら主体的に学び、経験を積む姿勢、国や地域を越えて多様な価値観をもつ人たちとコミュニケーションができる機会を提供する。
- (2) 課題探究型学習、フィールドワーク、収集したデータの協同的な分析、発表の機会を設定することで自らが学修を希望する専門領域にとどまることなく幅広い視野で隣接した学問分野に対する興味関心を高める機会を提供する。
- (3) 海外でのスポーツ文化交流や指導体験を通して、異文化理解を促進する機会を提供する。

3. 学修の評価

- (1) シラバスに示した評価規準に即して学修成果を評価する。
- (2) 学修成果は、最終テスト並びに授業過程において実施する小テスト、レポート、発表、実技試験等を踏まえて評価していく。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

スポーツ文化学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. スポーツを通じた日本国内外の社会的課題の解決に関心のある人
2. 体育・スポーツに関して、自己アピールできるものをもっている人や見つけたい人
3. 他者と協調・協働し、課題解決に向けた活動をすることに意欲のある人
4. 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとする人
5. 多様な文化・価値観を学び、国・地域や国際社会で活躍したい人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

スポーツマネジメント学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

スポーツマネジメント学部では、本学の「教育目標」に基づき、体育スポーツ学、スポーツマネジメント学に関する専門教育並びに教養科目等に関する共通教育を通じて、以下のような資質・能力を獲得した学生に「学士(体育学)」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能
 - (1) 幅広い教養と専門分野(体育スポーツ学、スポーツマネジメント学)に関する基礎的な知識・技能を体系的に身に付けている。
 - (2) 現代のスポーツ全体を見渡し、スポーツの価値を有効に活用することで個人や組織、社会の課題解決を図るとともに、スポーツビジネスの発展や地域における豊かなスポーツライフの実現を推進し得る実践的なマネジメント力を身に付けている。
2. 汎用的能力
 - (1) 課題の発見・設定をし、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決の方法を見出し、解決のための方策を企画・実行することができる。(企画力、課題解決力)
 - (2) 筋道を立てて思考し、適切な根拠に基づき、自分の考えを表現できる。(論理的思考力、表現力)
 - (3) 日本語及び外国語を使って読み、書き、聞き、話すことができる。(コミュニケーションスキル)
 - (4) ICTを使って多様な情報を収集・分析し、判断・活用することができる。(情報収集・活用能力)
3. 態度
 - (1) スポーツを事業として捉えてビジネスチャンスを見出す、ライフステージに応じたスポーツや運動プログラムを企画するなど、スポーツの新たな価値を創造する意欲を有している。(新たな価値の創造)
 - (2) 様々な立場の人と協調・協働し、体育スポーツ学、スポーツマネジメント学における課題の解決に向かって主体的に参画し、リーダーシップを発揮しようとしている。(チームワーク、リーダーシップ、参画)
 - (3) 共生社会の実現に向けて、様々な立場の人を尊重し、共感し、思いやりのある態度をとうろうとしている。(共生、共感)
 - (4) 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとしている。(規範意識、倫理観)
 - (5) 自己への理解を深め、確たる自信や前向きな態度をもって、自律して生涯学び続けようとしている。(自己理解、自己効力感、自律、生涯学習)

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツマネジメント学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成
 - (1) 本学が果たしてきた歴史的・社会的使命を理解すると同時に我が国の体育・スポーツの歴史を知り、本学で学ぶ意味の醸成を目的として「日体大アイデンティティ科目」を設け、「日体大の歴史」及び「オリンピック・パラリンピック概論」を置く。
 - (2) 体育・スポーツにおける実践的指導力のみならず、広く社会一般で先導的役割を担うためのチームワークやリーダーシップ、コミュニケーション能力並びに規範的意識を養成するため、「日体大アイデンティティ科目」に「海浜実習」、「キャンプ実習」、「スキー実習」、「スケート実習」の4つの学外(野外)実習科目を設ける。
 - (3) 多様性を受け容れ、共生・共感の態度をもって、地球市民として各分野で活躍できる力を養うために「グローバルコミュニケーション科目」を設ける。
 - (4) 幅広い教養を身に付け、生涯学び続けることのできる前向きな態度を育成するために、初年次と2年次に「教養科目」を設ける。
 - (5) スポーツマネジメントにおける課題を主体的に解決できる能力を育成するために、初年次から4年次までを通した「総合教育科目」の中に研究科目を設ける。この科目群では、初年次に「スポーツマネジメント研究A」、2年次に「スポーツマネジメント研究B」、3・4年次に「スポーツマネジメント研究C・D・E・F」を必修とし、論理的思考力、表現力、情報収集・活用能力、課題解決力の段階的・体系的な能力の向上を図る。
 - (6) 体育スポーツ学、スポーツマネジメント学に関する基礎的な知識と技能を身に付けることを目的とした「基幹科目」と「展開科目」を設ける。
 - (7) 専門分野の知識・技能を身に付け、社会の状況に応じた実践的マネジメント能力を高めるために、各学科に「学科基礎科目」と「学科専門科目」を設ける。
 - ① スポーツマネジメント学科
スポーツに関係する組織や団体、企業等をマネジメントしたり、スポーツをビジネスと関連付けてマネジメントするための専門的な知識や技能を身に付けるために、「学科基礎科目」を設ける。また、世界中で展開しているイベント・商品開発・施設経営など様々なスポーツビジネスの実践現場に活かせる企画力・実践力・プレゼンテーション力を養い、新たな価値を生み出す意欲と態度を培うために、「学科専門科目」を設ける。

② スポーツライフマネジメント学科

多様な人々のスポーツライフをマネジメントし、現代社会の様々な課題を解決するための専門的な知識や技能を身に付けるために、「学科基礎科目」を設ける。また、部活動、地域スポーツ、まちづくり、健康づくりなどに関わる指導力とマネジメント力を向上させるための「学科専門科目」を設け、専門性の高い指導者を養成するためにアウトドアスポーツに関わる理論・実習、スポーツ・レクリエーションの実技、高齢者や障がい者のスポーツ指導に関する実技などの科目を配置する。

(8) 多様な形で社会に貢献できる能力を育成するために、「自由科目」を設ける。

2. 教育方法

(1) 講義、演習、実技、実習をバランスよく組み合わせ、主体的な学修の充実を図る。

(2) 科目の特性に応じて双方向型授業、グループワーク、集団討論、反転授業、PBL型授業等を初年次から展開し、動機付け・目的意識の向上を促す。

3. 学修の評価

(1) 各科目の到達目標と評価方法はシラバスに明示し、具体的な評価基準については、授業内で学生に周知する。

(2) 学修成果は定量的、定性的に評価する。

(3) 「スポーツマネジメント研究E・F」での成果、提出された論文等から4年間の学修を総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

スポーツマネジメント学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. スポーツに関わる組織や個人のマネジメント及びスポーツをめぐるビジネスについての知的好奇心の旺盛な人
2. 体育スポーツ学、スポーツマネジメント学を学修する上で幅広い教養を担保するものとして、高等学校などで身に付けるべき各教科に関する基礎的学力を有している人
3. 授業、大学行事、課外活動、ボランティア活動などにおいて、他者と協調・協働し、課題解決に向けた活動をすることに意欲を有している人
4. 国内外において体育・スポーツを推進し社会に貢献できるリーダーを目指す人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

児童スポーツ教育学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

児童スポーツ教育学部では、本学の「教育目標」に基づき、教育学・保育学、体育・スポーツ科学に関する専門教育並びに教養科目等に関する共通教育を通じて、以下のような資質・能力を獲得した学生に「学士（児童スポーツ教育学）」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能
 - (1) 幅広い教養と専門分野（教育学・保育学、体育・スポーツ科学）に関する基礎的な知識・技能を体系的に身に付けている。
 - (2) 児童（乳幼児を含む）の状況に応じた実践的指導力を身に付けている。
2. 汎用的能力
 - (1) 課題の発見・設定をし、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決の方法を見出し、解決することができる。（課題解決力）
 - (2) 筋道を立てて思考し、適切な根拠に基づき、自分の考えを表現できる。（論理的思考力、表現力）
 - (3) 日本語及び外国語を使って読み、書き、聞き、話すことができる。（コミュニケーションスキル）
 - (4) ICTを使って多様な情報を収集・分析し、判断・活用することができる。（情報収集・活用能力）
3. 態度
 - (1) 様々な立場の人と協調・協働し、教育学・保育学、体育・スポーツ科学における課題の解決に向かって主体的に参画し、リーダーシップを発揮しようとしている。（チームワーク、リーダーシップ、参画）
 - (2) 共生社会の実現に向けて、様々な立場の人を尊重し、共感し、思いやりのある態度をとろうとしている。（共生、共感的態度）
 - (3) 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとしている。（規範意識、倫理観）
 - (4) 自己への理解を深め、確たる自信や前向きな態度をもって、自律して生涯学び続けようとしている。（自己理解、自己効力感、自律、生涯学習）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

児童スポーツ教育学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成
 - (1) 共生、共感的態度で、自己効力感を持って前向きに学ぶ意欲を身に付けるとともに、チームワークやリーダーシップ、規範意識を養うために、本学独自の「日体大総合科目」を設ける。
 - (2) 幅広い教養を身に付け、生涯学び続けることのできる前向きな態度を育成するために、初年次と2年次に「教養科目」を設ける。
 - (3) 外国語でのコミュニケーションスキルを高めることを目的とした「言語コミュニケーション科目」を2年次までに設ける。
 - (4) 教育・保育、体育・スポーツにおける課題を主体的に解決できる能力を育成するために、初年次から4年次までを通じた「児童スポーツ教育学部基軸・キャリア科目」を設ける。この科目群では、初年次に「基礎ゼミナール」、2年次に「児童スポーツ教育演習」、3・4年次に「児童スポーツ教育研究」を必修とし、論理的思考力、表現力、情報収集・活用能力、課題解決力の段階的・体系的な能力の向上を図る。
 - (5) 教育学・保育学、体育・スポーツ科学に関する基礎的な知識と技能を身に付けることを目的とした「共通専門科目」を2年次までに設ける。
 - (6) 専門分野の知識・技能を身に付け、児童（乳幼児を含む）の状況に応じた実践的指導力を高めるために、「スポーツ実技科目」と「コース専門科目」を設ける。
「コース専門科目」については、各コースで次のように配置する。
 - ① 児童スポーツ教育コース
初等教育に関する知識と指導力を身に付けるために、2・3年次を中心に「教育の基礎に関する科目」、「教科の内容と指導法に関する科目」、「中学校関連科目」を配置する。併せて、本コースの特徴である身体・健康・スポーツに関わる「発展・展開科目」を3年次までに設ける。
 - ② 幼児教育保育コース
幼児教育・保育に関する知識と指導力を身に付けるために、1・2年次を中心に「教育・保育の基礎に関する科目」を設け、2年次を中心に「保育の内容と指導に関する科目」を各学年に配置する。併せて、幼児教育・保育の様々な分野に関する専門的知識と技術を身に付けるために、「発展・展開科目」を3年次以降に配置する。さらに、「教育・保育実習科目」を2年次から3年次までに段階的に配置する。
 - (7) 教職界に限らず、多様な形で社会に貢献できる能力を育成するために、「自由科目」を設ける。

2. 教育方法

- (1) 講義、演習、実技、実習をバランスよく組み合わせ、主体的な学修の充実を図る。
- (2) 科目の特性に応じて双方向型授業、グループワーク、集団討論、反転授業、PBL型授業等を初年次から展開し、動機付け・目的意識の向上を促す。

3. 学修の評価

- (1) 各科目の到達目標と評価方法はシラバスに明示し、具体的な評価基準については、ルーブリックを作成し、授業内で学生に周知する。
- (2) 学生自身が学修履歴を記録するポートフォリオを用意し、学修をふり返り、自己評価を行う機会を「児童スポーツ教育学部基軸・キャリア科目」の授業の中に設ける。
- (3) 「児童スポーツ教育研究」によって提出された論文・成果物等から4年間の学修を総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

児童スポーツ教育学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. 教育・保育への関心を持ち、それらの職への強い使命感や志のある人
2. 教育学・保育学、体育・スポーツ科学を学修する上で幅広い教養を担保するものとして、高等学校などで身に付けるべき各教科に関する基礎的学力を有している人
3. 授業、大学行事、課外活動、ボランティア活動などにおいて、他者と協調・協働し、課題解決に向けた活動をすることに意欲のある人
4. 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとする人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

保健医療学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

保健医療学部は、本学の「教育目標」に沿った人材を育成するため、独自の教育プログラムを展開する。この課程における、卒業認定と学位授与の要件は、以下の通りである。

〔整復医療学科〕

整復医療学科では、豊かな人間性と倫理観に満ち、国際的視野を備え、スポーツとスポーツを通じた人々の健康に医療の立場から貢献する人材を育成することが社会から期待されている。このような人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の133単位を修得した者に卒業を認定、学位【学士（整復医療学）】を授与する。

具体的な知識・技能及び応用力等は、次の通りである。

資質・能力

1. 知識・理解

- 我が国の伝統医療である柔道整復術に関する知識と技術を有し、適切に実践できる。
- 基礎医学と臨床医学に関する高度の知識を有し、科学的思考を身につけている。
- スポーツに関する幅広い知識を有し、スポーツによる身体への影響を理解できる。

2. 分野固有の能力

- 柔道整復師の業務を理解し、柔道整復術の適応と禁忌を判断して施術の客観的評価ができる。
- 運動器外傷に対し、適切な応急手当から社会・競技復帰までの治療ができる。
- スポーツ選手の外傷・障害に応じた適切な指導と管理ができる。

3. 汎用的能力

- 医療人として高い倫理観に基づき、主体的な判断ができる。
- 優れたコミュニケーション能力や協調性を有し、思いやりに満ちた行動ができる。

4. 態度・姿勢

- 柔道整復術を実践し、国民の健康維持と増進の一翼を担うという自覚を持っている。
- スポーツとスポーツを通じた人々の健康に医療の立場から貢献するという強い意志を持っている。
- 生涯にわたり自ら学び続ける習慣を身につけている。
- 国際交流の重要性を理解し、柔道整復師としてスポーツに関わりグローバルに活躍する国際性を身につけている。

〔救急医療学科〕

救急医療学科では、所定の期間在学し、次のような知識・能力等を身につけ、所定の単位を修得した者に卒業を認定するとともに、学位【学士（救急医療学）】を授与する。

1. 救急・災害医療に関する医学的・法的知識を有し、医療人として必要な倫理観を備えている。
2. 臨床現場において、科学的根拠に基づいて思考し、必要な医療技術が実践できる。
3. 現代社会におけるグローバル化に対応できる多様性を備え、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を有している。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健医療学部は、「卒業認定・学位授与の方針」に則って、次の通り、「教育課程編成・実施の方針」を定める。

〔整復医療学科〕

整復医療学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、「学部共通科目」と「専門教育科目」を体系的に編成し、講義・演習・実習等を適切に組み合わせて授業を展開する。教育課程については、コースツリーにより体系的に明示する。

教育内容、教育方法、学習成果の評価、について以下の通りとする。

1. 教育内容

学部共通科目については、「言語コミュニケーション科目」「教養科目」「総合科目」「数理・情報系」「生物学系」「体育学系」の6つの科目群に区分する。専門教育科目については、「スポーツ科学」「人間の構造と機能」「疾病と傷害」「柔道整復術の適応」「柔道整復の理念と保健医療福祉」「社会保障制度」「基礎柔道整復学」「臨床柔道整復学」「柔道整復実技」「臨床実習」「総合」の11の科目群に区分する。

2. 教育方法

●講義

知識のインプット、アウトプットを繰り返して知識の定着と理解を深める。また、適宜グループディスカッションを行い、人の意見や解釈に多様性があることを理解する。

●実習

参加型実習を重視している。倫理観、協調性、自己の役割と責任を認識し、主体的に考え、行動できるよう促す。さらに、プレゼンテーションの場を適宜設定し、知識の整理と人に伝える力の養成を重視する。

●演習

知識の定着と技術の正確性を高めるため、反復して学習することを重視する。

●eラーニング

予習・復習を可能にし、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲の促進を図る。

●課外活動

特別解剖見学実習やインターンシップを学科独自で制度化して実施し、低学年で学んだ内容の復習の機会や将来像の創造のための自発的行動を促進する。

●柔道整復師国家試験対策

柔道整復師国家試験対策プロジェクトを立ち上げ、1年次から習熟度確認のための模擬試験を実施し、4年次においては課外活動として対策授業を実施する。さらに、モバイルラーニングにより、いつでもどこでも学べる環境を提供する。

3. 学習成果の評価

成績評価は、各科目の「授業科目のねらい・到達目標」に対する到達度を目安として採点する。成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに掲げた身につく能力（コミュニケーション能力、問題解決力、組織的行動能力、自己実現力、知識獲得力、実技能力、英会話能力）に応じて、筆記試験、プレゼンテーション、レポート、参加態度など適切な評価を組み合わせ、その配点比率を予め明示する。また、成績評価の客観性を維持するため、成績評価の終了後に試験問題やレポート課題の出題意図・講評などを学生へ告知し、成績分布を公表する。

【救急医療学科】

1. 大規模災害に対応できる人材を育成するために、災害ボランティアや防災訓練に参加する等現場経験を重視した演習や実習科目を配する。
2. 海外で活躍できる人材を育成するため、国際的な救急システムに関する科目を配する。
3. 医療人として必要な倫理観を身に着けるために、早期の臨床現場見学、病院内実習、救急車同乗実習等、救急医療の現場（実践）を意識した科目を重視する。
4. 専門知識と医療技術を実践する能力を修得するための救急医学総論及び各論、シミュレーション実習等については、特にOSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）の評価を重視する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

保健医療学部では、その「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」に沿って、入学者選抜を実施する。

【求める人材像】

1. 国語、英語等で学んだことを基盤とした言語能力及びコミュニケーション能力を有している。
2. 地理歴史、公民等を通じた地球規模で現代社会を読み解く力を有している。
3. 数学、理科等で学んだ思考力に基づき、体育・身体活動・スポーツを客観的に分析する力を有している。
4. 保健体育、芸術等で研いた感性と創造力から、人間の心身の可能性（スポーツ・芸術・文化）について探究する力を有している。
5. 種々の課外活動を通じて身につけたチームワークや実践力を有している。

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校等において修得すべき、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」、「一般選抜」、「特別選抜」（帰国生・国際バカロレア（IB）資格・英語外部資格・リカレント）など多様な選抜区分を設ける。

「学力の三要素」を踏まえた多面的・総合的評価について

選抜区分	選考方法	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
リカレント選抜	書類審査	●	●	●
	小論文試験	●	●	
	プレゼンテーション		●	●
	※1 実技試験	●		

※1 実技試験はスポーツ文化学部 武道教育学科のみ

「小論文試験」

志望学部・学科での学修に関わる基礎的内容に関して自身の考えを文章表現し、理解力、文章構成・表現力・分析力等を論述する。

【①知識・技能】【②思考力・判断力・表現力】を評価する。

「プレゼンテーション」「書類審査」

直接の対話や出願時に提出する書類により、学力では測ることのできない適性や意欲、能力、熱意・関心等を多面的に評価する。

【①知識・技能】【②思考力・判断力・表現力】【③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】を評価する。

「実技試験」

指定する種目を通じて、人間の心身の可能性(運動能力の向上等)における探究力、大学教育を受けるに相応しい能力・適性を多面的に評価する。

【①知識・技能】を評価する。

リカレント選抜要項

1. 募集人員

学部	学科・コース	募集人員
体育学部	体育学科 健康学科	若干名
スポーツ文化学部	武道教育学科(※) スポーツ国際学科	若干名
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科 スポーツライフマネジメント学科	若干名
児童スポーツ教育学部	児童スポーツ教育コース 幼児教育保育コース	若干名
保健医療学部	整復医療学科 救急医療学科	若干名

※武道教育学科

種目【柔道、剣道、相撲、空手道、少林寺拳法、合気道、弓道、なぎなた、伝統芸能】

2. 出願資格

令和6年3月31日現在満22歳以上の者で、次の(1)～(3)のいずれかに該当する者。

- (1) 高等学校(中等教育学校を含む)を卒業した者。
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。
- (3) 学校教育法施行規則の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。

3. 選抜日程・選抜方法等

出願期間	令和5年11月1日(水)～令和5年11月9日(木) 期間内消印有効	
選考試験	試験日	令和5年12月3日(日)
	試験場入室時間	9:00～9:40
	選考方法	小論文試験(日本語で論述する。60分) 10:00～11:00
		プレゼンテーション* (15分程度) 小論文終了後、順次実施
		*3～5分以内でプレゼンテーション(これまでの経歴や入学後の学修目標、卒業後の進路等)を日本語で行い、その後、質疑応答を行います。なお、プレゼンテーションは口頭のみとします。
	試験場	※実技試験(動画提出) ※武道教育学科のみ 詳細は「4.実技試験について」を参照
合格発表日	本学(東京・世田谷キャンパス)	
入学手続締切日	令和5年12月7日(木)	
	令和5年12月14日(木)	

4. 実技試験について(動画提出)※武道教育学科のみ

(1) 実技試験動画について

出願時に、各種目の課題を撮影した動画を作成し、提出してください。

◆提出方法等

- ① 撮影した動画はUSBメモリ(DVD-R可)で提出してください。
- ② 提出された動画は返却できません。
- ③ 動画保存時における拡張子は、『.mov』または『.mp4』としてください。

◆試技及び撮影に関する注意事項

- ① 試技はそれぞれの種目の道着、衣装にて行ってください。
- ② 本人確認のため試技を始める前に、顔がはっきりと映る位置から氏名・種目・生年月日(西暦)を申告してください。

- ③編集・加工は不可とします。それらが認められた場合や、本人確認ができない場合は不合格となる場合があります。
- ④試技撮影時のカメラは固定し、全身が映るように撮影してください。
- ⑤試験課題毎に撮影を止める場合は、撮影の都度、氏名・種目・生年月日(西暦)を申告してください。
- ⑥各種目の指定された試験課題が終了するまで撮影してください。

(2)課題詳細について

種目	試験課題	試験内容	撮影方向	備考
柔道	①座礼と立礼	正座→礼→起立→立礼→一步前へ	側面	全ての内容を5分以内にまとめること
	②受け身	後方受け身・前受け身・横受け身(左右)・前方回転受け身(左右) 各1回		
	③一人打ち込み	得意な技3種類 各10回		
剣道	①素振り	①上下振り20本 ②斜め振り20本 ③空間打突(正面)20本 ④跳躍素振り(早素振り)30本	正面	<ul style="list-style-type: none"> ・全て面を装着せずに実施すること ・全日本剣道連盟編「剣道指導要領」を参照
	②面装着	①面装着		
	③しかけ技	①一本打ちの技(面・小手・胴・突き)各2本 ②連続技(小手→面、突き→面)各2本 ③払い技(払い面(表)、払い小手)各2本 ④出ばな技(出ばな面、出ばな小手)各2本 ⑤引き技(引き面、引き胴)各2本	側面	<ul style="list-style-type: none"> ・全て面を装着して実施すること ・元立ちは高校生とすること ・全日本剣道連盟編「剣道指導要領」を参照
	④応じ技	①抜き技(面抜き右胴、小手抜き面)各2本 ②すり上げ技(面すり上げ面(表)、小手すり上げ面)各2本 ③返し技(面返し胴(右)、小手返し面)各2本 ④打ち落とし技(胴打ち落とし面)2本		
	⑤基本稽古	①切り返し ②打ち込み稽古15秒 ③掛かり稽古15秒		
	⑥互格稽古	①互格稽古1分		
相撲	①蹲 踞	直立姿勢から撮影し、蹲踞の姿勢で3秒静止すること	正面	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財)日本相撲連盟ホームページ「中学校体育 相撲指導の手引き」(改訂版)を参照
	②中腰の構え	直立姿勢から撮影し、中腰の姿勢で3秒静止すること		
	③「押し」を意識した中腰の構え	直立姿勢から撮影し、「押し」を意識した中腰の姿勢で3秒静止すること		
	④仕切り	直立姿勢から撮影し、仕切りの姿勢で3秒静止すること		
	⑤塵手水	直立姿勢から撮影し、一つ一つの動作を流れ良く行うこと		
	⑥四 股	中腰の構えから撮影し、四股は20回踏むこと		
空手道	①指定形での試技	第一指定形、第二指定形から一つを選択し試技すること	正面	<ul style="list-style-type: none"> ・形の試技は(公財)全日本空手道連盟が定める指定形で行うこと
少林寺拳法	①基本諸法	結手、合掌構、左中段構、開退って右一字構、結手	正面	/
	②基本突蹴受	開足中段構から上段振り突、中段蹴上、中段廻蹴、下受、払受、上受、を各6回行う		
	③移動突蹴	左前中段構から差替上中二連突、逆突逆蹴、開退乍ら上受・同時受、を各6回行う		
	④単独演武	左前から天地拳第一から天地拳第六、を1回行う		
合気道	①技	1)片手取り四方投げ 2)正面打ち入身投げ 3)正面打ち第一教 4)片手取り小手返し 5)両手取り天地投げ 6)座技正面打ち第一教 7)半身半立ち片手取り四方投げ 8)半身半立ち両手取り四方投げ 9)自由技(攻撃方法は任意) 10)座技呼吸法	側面 (実施者が画面を横切るように撮影)	<ul style="list-style-type: none"> ・画面に対して横を向き、取りと受けを左右交互に2回実施すること ・表裏がある技は表裏の順に行うこと

種目	試験課題	試験内容	撮影方向	備考
弓道	①射法八節	立射にて正面と背面の両方向からそれぞれ一手ずつ行う	正面・背面	・必ず射の全体がわかるように常に全身を大きく撮影すること ・弓は多少見切れても可とする
なぎなた	①八方振り	各部8呼間で行う	正面 (切先も入るように撮影)	・自然体→礼→中段の構えから八方振りに入る
	②空間打突	面、振り上げ脛、側面・脛、胴・振り返し面、小手	側面 (切先も入るように撮影)	・中段の構え→打突→体さばきで一步又は二歩下がる→打突
伝統芸能	①日本舞踊・和太鼓・民俗芸能	日本舞踊・和太鼓・民俗芸能のいずれか1演目を演じること	正面 (演目全体がわかるように撮影)	・演目名を申告後、演技を始めること (例)日本舞踊「○○○○」 ・演技時間は3～5分以内とする

5. 出願手続

(1)提出方法

所定の「宛名シート」を貼付した角2封筒に、出願書類一式を封入し、「速達・特定記録」扱いで郵送してください。(「特定記録郵便物等受領証」は大切に保管してください。)

なお、窓口出願は受け付けていません。

(2)入学検定料

35,000 円

出願期間中に下記口座へ検定料を振込んでください。

振込みの際、ご依頼人名は必ず志願者氏名で振込んでください。

<p><入学検定料振込先> みずほ銀行 世田谷支店 普通預金 943559 ニッポンタイクダイガクケンテイリヨウグチ 日本体育大学 検定料口</p>
--

・振り込み後は、依頼人の控え(インターネットバンキングの場合は振込日時、宛先、金額など、振り込みの概要が分かる画面もしくはプリントアウト)を大切に保管してください。

(3)出願書類(所定用紙は本学ホームページから印刷してください。)

出 願 書 類	注 意 事 項
①受験票・写真票・志願票(所定用紙)	・受験票・写真票・志願票に同じ写真3枚を貼付してください。 (出願締切日から3ヶ月以内に撮影した正面上半身無帽で縦4cm×横3cm)。
②志願理由書(所定用紙)	・黒ボールペンで本人が自筆してください。
③履歴書(所定用紙)	・黒ボールペンで本人が自筆してください。
④志願者情報登録カード(エクセル入力)	①本学ホームページからダウンロードし、必要事項を入力後、印刷して提出してください。 ②入力データは、併せてメールでも提出してください。 送信先メールアドレス: nyushi2023@nittai.ac.jp

⑤調査書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出身学校長が作成し、厳封したもので、出願前 3 か月以内に発行されたもの。 ・ 高等学校卒業程度認定試験合格(見込)者は、合格(見込)成績証明書を提出してください。但し、免除科目がある場合は、以前に在籍した学校の成績証明書も併せて提出してください。 ※ 廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合は、事前にアドミッションセンターまでお問い合わせください。
⑥実技試験動画(武道教育学科のみ)	詳細は、p.13 ページを参照してください。

* 外国の学校または機関が作成する書類が日本語・英語以外の言語で書かれている場合、日本語または英語の訳文を添付してください。その際は大使館等の公的機関からの翻訳証明が必要です。

6. 出願に関する注意事項

(1)出願上の注意

- ①不備のある出願書類や出願締切後に発送された出願書類は一切受け付けません。
- ②一度提出された出願書類及び支払われた入学検定料は一切返還しません。
【入学検定料の返還請求(振込手数料を除く)ができる場合】
 - ・入学検定料を支払ったが、本学に出願書類を発送しなかった。または出願書類が受理されなかった。
 - ・入学検定料を誤って二重に支払った。
- ③出願受付後、他選抜区分及び他学科・コースへの変更はできません。
- ④出願書類に虚偽の記載がなされていた場合、入学前に重大な不祥事をおこした場合は、合格の場合でも合格取消となりますので、公正な手続等によって出願・受験してください。

(2)障がい等のある入学志願者の事前相談について

(参照: <https://www.nittai.ac.jp/exam/com/recruitment.html#anchor07>)

けが及び障がい等により受験時または入学後に配慮を希望する場合は本学ホームページより「けが及び障がいのある入学志願者の事前相談について」を確認し、「入学者選抜 受験上の配慮申請書(所定用紙 A)」を提出してください。

(3)外国籍を有する者の出願書類について

(参照: <https://www.nittai.ac.jp/exam/com/recruitment.html#anchor08>)

外国籍を有する者は、本学ホームページより「外国籍保有者願書(所定用紙 B)」を確認し、提出してください。なお、本学では、保証人は出願時には必要としませんが、入学手続き時に保証人を定めて届け出ることとしています。外国人留学生の保証人は、日本国籍を有する成年であって、日本国内に居住し、独立の生計を営む者となります。

(4)本学からの連絡について

本学からの連絡については、出願時に登録した電話番号または E-mail アドレス宛に行います。ドメイン指定受信をしている場合は、本学からのメール(@nittai.ac.jp / @ml.nittai.ac.jp)が受信できるようにあらかじめ設定しておいてください。

なお、出願時に登録した E-mail アドレスは令和 6 年 3 月 31 日までに使用しますので変更しないでください。

7. 保証人について

本学では、保証人は出願時には必要としませんが、入学手続き時に保証人を定めて届け出ることとしています。

外国籍を有する者(永住者を除く)の保証人は日本国籍を有する成年であって日本国内に居住し独立の生計を営む者となります。

8. 受験に関する注意事項

(1)持参するものについて

①受験票

受験票を紛失または忘れた場合は、本学試験担当者に申し出てください。

②筆記用具

黒鉛筆(HB)またはシャープペンシル(HB)、プラスチック製消しゴム

③時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く)

試験場内に時間を確認できる時計がない場合がありますので、腕時計等を持参してください。

④服装・昼食(任意)

試験場換気による窓の開放等を行う時間帯があるため、必要に応じて上着等暖かい服装を持参してください。また、試験会場では学生食堂等の営業は行わないため、必要に応じて昼食を持参してください。なお、飲食は自席に限ります。

※会場内備え付けの自動販売機は利用可能ですが、数に限りがありますので、飲み物はできる限り各自でご用意ください

(2)試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症(COVID-19、インフルエンザ、麻疹、風疹等)に罹患し治癒していない者は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。試験当日の体調管理については十分に注意してください。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置、入学検定料の返還は行いません。

(3)携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類は試験場に入る前に必ずアラームの設定を解除して電源を切り、試験場から退構するまで、かばん等にしまってください。これらをかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っているとは不正行為となることがあります。

(4)キャンパス入構時に受験票を提示してください。入構後は、試験終了までキャンパス内から出ることはできません。

(5)可能な限り、試験場までの道順、所要時間等を実際に確認しておいてください。

なお、以下の日程は入学者選抜準備及び実施のため、本学キャンパス内に入構できません。

【東京・世田谷キャンパス】

令和5年10月13日(金)～令和5年10月15日(日)

令和5年10月21日(土)～令和5年10月22日(日)

(6)選考当日の緊急情報は右記 URL より確認できます。 <https://blog.nittai.ac.jp/nyushi/>

(7)車での来校はできません。公共交通機関をご利用ください。



(8)遅刻した場合について

試験開始後 20 分までに試験場(キャンパス内)に到着した場合に限り、受験を認めます。

(9)公共交通機関の遅延等により、試験場入室時間終了までに間に合わない場合は、直ちにアドミッションセンターへ連絡してください。また、当該公共交通機関において遅延証明書を必ず受領してください。

(10)受験生以外の方は会場に入れません。(付添人控室はありません。)

(11)事故・怪我については応急処置をしますが、それ以上の責任は負いかねます。安全に十分注意して試験に臨んでください。

(12)小論文試験時について

①「受験票」は、試験担当者が見やすいように机の上に置いてください。

②「受験票」の他に試験時間中、机の上に置けるものは以下のとおりです。

- ・黒鉛筆(HB)、シャープペンシル(HB)
- ・鉛筆キャップ
- ・プラスチック製消しゴム
- ・鉛筆削り(電動式・ナイフ類を除く)
- ・時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く)
- ・眼鏡
- ・ハンカチ
- ・ティッシュペーパー(袋または箱から取り出した紙のみであること)
- ・目薬

③「耳せん」は、放送や試験担当者の指示等が聞き取れないことがありますので、キャンパス内では使用できません。

④試験時間中に退室はできません。体調不良またはトイレ等やむを得ない場合には、手を挙げて試験担当者の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも、一時退室した間の試験時間の延長はできません。また、別室での受験もできません。

⑤不正行為について

以下のことを行うとは不正行為になる場合があります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退出を指示され、それ以降の受験はできません。また、受験した全ての成績が無効になります。

- ・カンニング(カンニングペーパー・参考書・他の受験生の答案等を見ること、他の受験生から答えを教わること)

等)を行うこと。

- ・他の受験生に答えを教えたり、カンニングの手助けを行うこと。
- ・問題や解答用紙を試験場から持ち出すこと。また、問題を書き写すこと。
- ・試験監督者の指示に従わず、問題を見る、解答を始める、または解答をやめないこと。
- ・試験時間中に使用を認めていないものを机の上に置くこと及びそれらを使用すること。
- ・試験場において他の受験生の迷惑となる行為を行うこと。
- ・その他試験監督者の指示に従わないこと。

(13)要項の選考方法に記載されている「プレゼンテーション」の時間は目安です。

9. 合否照会システムについて

本学の正式な合格発表は、合格発表日に合格証明書等の発送をもって行いますが、受験生の便宜を考慮し、「合否照会システム(インターネット)」による合否案内を行います。(学内掲示は行いません。)

なお、不合格通知書は送付いたしません。

また、アドミッションセンターに直接連絡をしても合否に関わるお問い合わせは一切受け付けできませんので、下記照会方法をご確認ください。

(1)利用方法・注意点

- ①インターネット、スマートフォン及び携帯電話で利用できます。
- ②「誤操作」及び「見間違い」を理由とした、入学手続期間終了後の入学手続は認めません。
- ③合否発表当日は混雑のため回線が繋がりにくいことがあります。その場合は、少し時間をおいてアクセスしてください。
- ④合否照会の利用期間は次のとおりです。

合否照会システム利用期間	
令和5年12月7日(木)～令和5年12月9日(土)	初日 10:00 より最終日 23:59 まで 確認可能

(2)照会方法

<https://www.gouhi.com/nittai/>



合否照会システム利用期間内に上記アドレスへアクセスし、画面の指示に従って操作してください。

また、本学ホームページ(<https://www.nittai.ac.jp/>)からも、上記アドレスへアクセスできますのでご利用ください。

10. 入学手続

(1)入学手続書類等の郵送について

合格者に対して、合格発表時に「合格証明書」及び「入学手続書類」を郵送します。

なお、入学手続の一部はインターネット上で行います。

(2)入学手続締切日

令和5年12月14日(木)

- ①入学手続時納入金(学費等)は、合格証明書に同封されている案内に従い、Web 入学手続サイトより所定の「振込用紙」を印刷し、入学手続締切日までに金融機関窓口でお振込ください。
- ②入学手続書類は、必要書類を用意し、手続締切日(消印有効)までに郵送してください。(インターネット上での手続締切日も同日)
- ③入学手続締切日までに入学手続時納入金(学費等)が未納だった場合は、入学辞退となりますので注意してください。
- ④振込金受取書(本人保存)は、入学手続をした証明になりますので大切に保管してください。
- ⑤入学手続締切日以降に入学手続者へ入学手続完了の旨を、出願時に登録した アドレスへメールで通知します。

(3)入学辞退について

提出期限:【窓口】令和6年3月29日(金)17:00まで

【郵送】令和6年3月31日(日)消印有効(速達・特定記録としてください。)

入学手続時納入金(学費等)を振込み後、入学を辞退する場合は、上記期限までに入学辞退届(所定用紙)を提出してください。入学金(¥300,000)を除く納入金を返還いたします。手続方法については、入学手続時にご案内します。

11. 入学前教育の実施について

12月までに合格し、入学手続をした早期入学予定者に対し、本学入学までの時間を有意義に過ごしてもらうために「入学前教育」を実施する予定です。詳細は合格発表日以降に連絡します。入学予定の学科によっては、その実施にあたって自己負担となる場合がありますので、予めご承知おきください。

学 費 案 内

(円)

費 目		体 育 学 部 ス ポ ー ツ 文 化 学 部 ス ポ ー ツ マ ネ ジ ム ン ト 学 部 児 童 ス ポ ー ツ 教 育 学 部		保 健 医 療 学 部				
				整 復 医 療 学 科		救 急 医 療 学 科		
		前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	
① 学 費	入 学 金	入学時のみ	300,000	—	300,000	—	300,000	—
	授 業 料		400,000	400,000	450,000	450,000	450,000	450,000
	施 設 整 備 費		125,000	125,000	150,000	150,000	150,000	150,000
	教 育 充 実 費		100,000	100,000	125,000	125,000	125,000	125,000
	健 康 管 理 費		10,000	—	10,000	—	10,000	—
	実 習 費		—	—	100,000	—	250,000	—
② その他の費用	学 友 会 費		13,000	—	13,000	—	13,000	—
	保 護 者 会 費		15,000	—	15,000	—	15,000	—
	同窓会準会員費	入学時のみ	10,000	—	10,000	—	10,000	—
分納の場合	③ 前学期納付金		973,000	—	1,173,000	—	1,323,000	—
	後学期納付金		—	625,000	—	725,000	—	725,000
一 括 納 入 の 場 合 (①+②)			1,598,000		1,898,000		2,048,000	

- ・ 授業料・施設整備費・教育充実費は、全額の1/2相当額を後学期に分納することができます。その場合の入学手続き時の納入金額は、③の金額となります。(分納された方の後学期分納分の振込用紙は、1年次10月中旬に郵送します。)
- ・ 入学金・同窓会準会員費以外の費目(金額)については、2年次以降も納入していただきます。
- ・ 学外集中実技を履修した際は、その都度費用をお支払いいただくことになります。
- ・ スポーツ文化学部では、選択必修の海外での実習を行いますので、その実費をお支払いいただきます。
参考：スポーツ文化学部令和5年度実習費300,000円(入学後別途案内)
- ・ 日本体育大学奨学生は、上記のうち、学費の一部が免除されます。詳細については、p.22の「日本体育大学奨学生制度」をご覧ください。

寄 付 金 に つ い て

本学では、教育研究環境充実のため、寄付金を募集する場合があります。但し、いずれも応募は任意で、入学前には募集いたしません。

● 「国の教育ローン」(教育貸し付け)について

「国の教育ローン」は、「家庭の経済的負担の軽減」、「教育の機会均等」という目的のために昭和54年に創設された公的な融資制度です。民間金融機関の補完を旨とする政策金融機関である日本政策金融公庫(日本公庫)が扱っています。詳しくは、教育ローンコールセンター 0570-008656 (03-5321-8656)、または「国の教育ローン」で検索、<https://www.jfc.go.jp/> から「国の教育ローン」を選択してください。

● 「提携学費ローン」について

日本体育大学が提携する企業を通し、一般より有利な条件で学費を融資してもらう制度です。提携企業による申請資格や審査、融資年利率が設定されるものです。(本学HP：学生生活>学費・奨学金>学費 奨学金・教育ローン参照)

日本体育大学学費ローン		
名 称	日本体育大学学費ローン	
提 携 先	株式会社オリエントコーポレーション	楽天銀行株式会社
問 合 せ 先	株式会社オリエントコーポレーション 学費サポートデスク	楽天銀行 カードセンター 教育ローン専用ダイヤル
営 業 時 間	平日 9:30~17:30 (土日を除く)	平日 9:00~20:30 (土日祝日 10:00~17:30)
☎	0120-517-325	0120-61-6910

学生生活案内

1. 授業・クラブ活動拠点について

(1) 体育学部

体育学部は、東京・世田谷キャンパスと横浜・健志台キャンパスの両キャンパスを使用して授業を実施します。

■ 体育学科

Web出願時の大学入学後の競技種目名をもとに、クラスを編成します。

(表1) クラブ・サークル活動拠点の1群を選択した場合は世田谷クラス、2群を選択した場合は健志台クラスになります。なお、入部を希望しない場合や未定と回答した男子の場合世田谷クラスになります。女子の場合は原則健志台クラスになりますが、授業クラスの人数の関係上、場合によっては世田谷クラスになることもありますのでご了承ください。

1年次は横浜・健志台キャンパスを中心に、学年が進むにつれて、当該クラスのキャンパスでの授業展開が増えていく予定です。(表2参照)

■ 健康学科

1年次は横浜・健志台キャンパスを中心に、学年が進むにつれて、東京・世田谷キャンパスでの授業展開が増えていく予定です。(表2参照)

(表1) クラブ・サークル活動拠点

(令和5年4月1日現在)

群 活動拠点	ク ラ ブ 名
1 群 東京・世田谷 キャンパス	総務部…………… 総務部
	合気道部、アメリカンフットボール部、カヌー部、空手道部、剣道部、山岳部、新体操部、柔道部、少林寺拳法部、スキー部、相撲部、ソフトボール部、体操部、卓球部、ダンス部、トライアスロン部、トランポリン競技部、軟式野球部、バスケットボール部、バレーボール部(6人制女)、バレーボール部(9人制)、ハンドボール部(女)、フェンシング部、ボート部、ボクシング部、ライフセービング部、ラクロス部、レスリング部(女)、チアリーダー部…………… 運動部
	応援団部、プラスバンド部…………… 応援部
	家政部…………… 厚生文化部
	研究・調査部、運動部2部、公認団体(救急医療サークルは除く) その他入学後入部を決定する者・未加入の者(男)
2 群 横浜・健志台 キャンパス	アーチェリー部、ウエイトリフティング部、硬式野球部、ゴルフ部、サッカー部、自転車競技部、水泳部、スケート部、ソフトテニス部、体操競技部、テニス部、バドミントン部、バレーボール部(6人制男)、ハンドボール部(男)、ラグビー部、陸上競技部、レスリング部(男)…………… 運動部
	研修部…………… 厚生文化部
	救急医療サークル…………… 公認団体
	入学後入部を決定する者・未加入の者(女) ※授業クラスの人数の関係上、世田谷クラスになることもある

(表2) 参考：令和5年度授業実施キャンパス ※令和6年度は未定です。

学 科	学 年	授業実施(日/週)	
		東京・世田谷キャンパス	横浜・健志台キャンパス
体育学科(世田谷クラス)	1年	1日	4日
	2年	2日	3日
	3年	2日	3日
	4年	4日	1日
体育学科(健志台クラス)	1年	0日	5日
	2・3年	1日	4日
	4年	0日	5日
健康学科	1年	2日	3日
	2・3年	3日	2日
	4年	4日	1日

(2) スポーツ文化学部

スポーツ文化学部は、東京・世田谷キャンパスで授業を実施します。

(3) スポーツマネジメント学部

スポーツマネジメント学部は、横浜・健志台キャンパスで授業を実施します。

(4) 児童スポーツ教育学部

児童スポーツ教育学部は、東京・世田谷キャンパスで授業を実施します。

(5) 保健医療学部

保健医療学部は、横浜・健志台キャンパスで授業を実施します。

2. 日本体育大学奨学生制度

本学では、学業成績または競技成績が優秀で心身ともに健全な学生に対し、奨学生制度を設け、学費について下表のとおり減免を行っています。

なお、この制度は本学奨学生選考委員会の選考を経て、年度ごとに採用されるものです。そのため、前年度に奨学生であっても、学業成績や競技成績等により奨学生選考委員会で選考した結果、翌年度は奨学生ではなくなる場合があります。予めご了承ください。

No.	名称	対象	免除する費目	申請時期等
1	特別奨学生A	競技成績優秀者 (体育学部)	〔1年次〕 …… 「入学金」、「授業料」、「施設整備費」、「教育充実費」の全額 〔2、3、4年次〕 … 「授業料」、「施設整備費」、「教育充実費」の全額	申請不要(学費納付時に該当者に通知)
2	特別奨学生B	(スポーツ文化学部) (スポーツマネジメント学部) (児童スポーツ教育学部) ※児童スポーツ教育学科・児童スポーツ教育コースのみ対象	〔1年次〕 …… 「入学金」、「施設整備費」の全額 〔2、3、4年次〕 … 「施設整備費」、「教育充実費」の全額	
3	一般奨学生	学業成績優秀者 (全学部)	〔1年次〕 …… 「入学金」、「施設整備費」の全額 〔2、3、4年次〕 … 「施設整備費」、「教育充実費」の全額	申請不要(1年次は前学期中、2年次以降は学費納付時に該当者に通知)

No.	名称	対象	給付	申請時期等
1	メイドー・MCS・長谷川奨学金 (2、3、4年次)	課外活動等の大学生活において目標に向けて強い志を持って取り組んでいる者	25万円	前年度後学期に申請 (1、2、3年次に申請)
2	雄渾奨学金	奨学金の貸与を受けている者でかつ経済的に困窮し修学困難な者	20万円	毎年次10月

3. 学費減免制度

本学では、学費納付者の負担軽減を図るために学費減免制度を設けています。詳細は以下のとおりとなります。

対象	免除する項目	申請時期等	備考
同一の扶養者により扶養されている兄・姉が本学に在学する入学生(双子入学の場合はどちらか1名)	「入学金」	入学した年度の6月末まで	
日本学生支援機構等、奨学金の貸与を受けても、なお学費納入が困難で学業成績が平均水準以上の者(2、3、4年次)	後学期「施設整備費」・「教育充実費」(単年度採用)	毎年次7月	採用枠あり
1年以内に家計急変があり日本学生支援機構奨学金を併用してもなお学費納入が困難な者	当該学期「施設整備費」・「教育充実費」(単年度採用)	随時応相談	

4. 国による高等教育の修学支援新制度

(文部科学省HP: <https://www.mext.go.jp/kyufu/student/daigaku.html>)

2020年4月からスタートした高等教育の修学支援新制度は、一定の学業基準、家計基準を満たせば、授業料等の減免や日本学生支援機構の給付奨学金が受けられる制度です。この制度による支援を受けるには、まず日本学生支援機構給付奨学金に申請が必要です。採用された日本学生支援機構の給付奨学金の支援区分により、授業料等の減免額も決定されます。

なお、大学での取り扱いにつきましては、所定の金額を納入していただき、入学後に減免額を還付します。還付時期等につきましては、日本学生支援機構給付奨学金の採用者説明会(5～6月予定)にてお知らせします。

■ 支援内容	1. 授業料・入学金の免除または減額 2. 給付型奨学金の支給(日本学生支援機構)
■ 支援対象	住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生 ※ 支援を受けられる年収目安と支援額は、日本学生支援機構ホームページにてご確認頂けます。 日本学生支援機構 進学資金シミュレーター https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html
■ 申請方法等	日本学生支援機構奨学金(給付) 申込手続きを行ってください。採用者に対しご案内します。



5. 寮 案 内

(1) 主 旨

学生寮は学生の経済的負担を軽減するための厚生施設であるとともに、共同生活を通して相互の親睦を深め、社会人・体育人としての基礎的教養を身につけ、実りある学生生活を送るよう、指導・助言にあたっています

(2) 施 設

寮 名	建物構造	部屋数	総定員数	所 在 地
深 沢 寮(男子)	鉄筋6階建	69室	256名	東京都世田谷区深沢5-12-17
和 泉 寮(女子)	鉄筋3階建	125室	250名	東京都世田谷区中町5-10-17
健 志 台 寮(男子)	鉄筋4階建	132室	492名	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町字上谷戸946-2
健 志 台 桜 寮(女子)	鉄筋5階建	80室	132名	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町550-1

冷暖房完備で洗濯機、乾燥機及びセキュリティボックス等が設置されています。

(3) 申込条件

寮別の申込条件は、以下のとおりです。

寮 名	申 込 条 件
深 沢 寮(男子)	学生会団体に所属が未定の方も入寮の申し込みができます。
和 泉 寮(女子)	学生会団体に所属が決定している方のみ入寮の申し込みができます。
健 志 台 寮(男子)	学生会団体に所属が未定の方も入寮の申し込みができます。
健 志 台 桜 寮(女子)	横浜・健志台キャンパスを拠点として活動する学生会運動部、もしくは公認団体の競技部門に入部希望の方が優先的に申込みます。 なお、保健医療学部の学生は入部を希望しなくても申込みます。但し入寮手続き者が多い場合は希望に添えないことがあります。

(4) 費用 (令和5年度参考例)

寮名	入寮費	食費	寮費(月額) ※光熱水費含む	年額
深沢寮(男子)	20,000円	1,530円/日(3食) ※春季・夏季・冬季休業時の提供なし	32,000円	818,690円
和泉寮(女子)				
健志台寮(男子)	20,000円	1,530円/日(3食)	33,000円	920,160円
健志台桜寮(女子)	20,000円	1,018円/日(2食) ※昼食・日曜の提供なし	1人部屋 52,000円 2人部屋 36,000円	949,400円 757,400円

入寮費は、初回時のみ徴収します。また、更新時に10,000円徴収します。

(5) 申込書類(学生寮案内及び入寮手続書類)

合格者を対象にご案内する「合格者専用サイト」に掲載致します。

(6) 問い合わせ先

深沢寮・和泉寮 TEL 03-5706-0904

健志台寮・健志台桜寮 TEL 045-963-7905

事務取扱時間：月曜～金曜 8:30～17:00



◆ 入学者選抜に関するお問い合わせ先 ◆

日本体育大学 アドミッションセンター

東京・世田谷キャンパス

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
TEL 03-5706-0910(直通) FAX 03-5706-0819(専用)

事務取扱時間：月曜～金曜 8:30～17:00

夏季一斉休業期間：2023年8月5日(土)～2023年8月13日(日)

冬季一斉休業期間：2023年12月28日(木)～2024年1月5日(金)

本学ホームページ <https://www.nittai.ac.jp/>

入学者選抜に関する緊急情報
<https://blog.nittai.ac.jp/nyushi/>



※ 試験当日の緊急情報（交通機関の乱れによる試験開始時刻繰り下げ対応等）も上記アドレスで確認できます。